

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2692600212		
法人名	社会福祉法人 五十鈴会		
事業所名	グループホーム風花		
所在地	京都府福知山市字行積141番地		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligosyoCd=2692600212-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligosyoCd=2692600212-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和4年11月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は山間部に位置し、自然豊かな環境の中にあります。居室からの景色も良く、敷地内にある桜、周辺の田や山々の四季折々の風景を楽しむことができます。その様な環境の中、ご利用者は、畑仕事や草むしりなど、自然に親しみながら生活をしています。また、ご利用者の多くが田畑をされてきた方であり、敷地内の畑で季節の野菜作りや収穫、その他地元住民の方からいただいた新鮮な野菜を自らで料理し召し上がっています。それらの仕事では、ご利用者自身が持つておられる能力、出来る事・得意なこと等を生かしています。コロナ禍でしたが感染予防に努めながら、可能な範囲でご利用者の希望される場所やドライブに行く等、また、バーベキューや併設の特養とのイベント行事などを実施し、単調になりがちな日常生活を楽しく、少しでも刺激を持っていただけるよう取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は、事業所理念に、“施設入所が「終わり」ではなく『希望の持てる生活』を目指します”等を掲げ、何かするときは利用者に意向を聞き、本人の思いを最重要視して支援をされています。魚の好きな方は、移動販売車で買ったおつくりで晩酌をされ、絵の好きな方は、自作の水彩画を額に入れてリビングに飾り、野菜作りの好きな方は農作業に励み、収穫した野菜の手作り食、本格石焼芋等を楽しみます。他にも、花見や、紅葉狩り、気入りの装いで迎える誕生日の様子は、広報紙「きらら通信」やブログにも掲載しています。入所直後は意欲をなくされていた方が、在宅時と同じように、農作業や餅つき、忘年会、ひな段飾り、梅ジュース作り、メニューを選べる喫茶、移動図書館等の利用で、四季の風物を重んじながら楽しく暮らせる事が分かり、次第に意欲が湧いてきた例もあります。丁寧なアセスメントやケアプランには、本人の可能性を広げ、望む暮らしを支えたいという、職員の強い思いが詰まっています。併設の地域密着型特別養護老人ホームの看護師や理学療法士等からも、必要な時には支援が得られ、9名の利用者は木の匂いのする第二の我が家で安心して暮らしておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所内に掲示すると共に、施設内研修時には理念の確認を行っている。また、職員は理念実現のための、ユニット目標、個人目標を作成するとともに事業計画にも参画し、理念実現のため取り組んでいる。	法人理念はホームページや事業所玄関、広報紙きらら通信に、事業所理念は重要事項説明書に掲げている。それをもとに毎年ユニット目標を定め、今年度は「声を掛け合いながら、思いやりを持って動くユニット」としている。職員は年4回自己評価表で目標を振り返り、課題を見つけ、上司コメントを参考にして、達成に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防のためボランティア等の受け入れはしていないが、地域住民のボランティアグループによる草とりや窓掃除などの協力を得ている。また、野菜の差し入れがあったりと交流が図れている。きらら通信を地域に全戸配布することで、入居中の知り合いの方や施設の様子が分かると好評をいただいている。	地域のコミュニティセンターの展示ブースに、ちぎり絵や水彩画、ハーバリウムの作品等を展示し、好評であった。限定的ではあるが、月1回、ボランティアの体操やレクリエーションを受け入れている。頂いたもち米で年末の餅をついた。「たんとおあがり京都府産」の認証を受け、地産地消の取り組みで地域と連携している。近隣の方が自動販売機を利用されるために立ち寄られる。北部地区民生児童委員協議会の方々から鉢植えの花の寄贈があり、利用者が受け取り、感謝を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加している民生児童委員や地域から働きに来ている職員を通して、地域での問題や課題等を拾い上げ、相談があればいつでも対応できる状態であることをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため運営推進会議が開催できない場合でも、委員に書面(事業所の現状や施設内での取り組み)にて状況報告を行い、それらに対する意見を頂戴し、回答している。委員の中には特養とグループホームの家族が参加しており、その際にも意見や要望を聞きとり、サービスの向上に努めている。	運営推進会議には、複数の地域の民生委員、児童委員、自治会長、有識者、市の地域包括ケア推進課長、地域包括支援センター職員、利用者家族等多様なメンバーが参加されている。資料やスライドで事業所の近況を知ってもらい、良い点や問題点について率直に話し合っている。市や地域包括支援センター職員からも、コロナ関連の事や介護予防の推進や、介護職員基礎講座の案内等、様々な情報や意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者や包括支援センター担当者の参加があり、施設の状況やサービスの質の向上への取り組みを伝えている。会議では各担当者や情報共有や意見交換を通して良好な関係が保たれている。	福知山民間社会福祉施設連絡協議会に加入し、市との意見交換会(WEB)に参加している。市の地域福祉計画策定委員会に参加し、施設長兼事業所の管理者が意見を述べている。事故報告の届け出や介護保険更新申請代行、運営推進会議等において市と連携している。介護相談員からは来所に代わり、手紙をもらっている。	

京都府 グループホーム風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会を年に2回開催し、その研修では事例検討も行き、利用者の尊厳の保持を目指した支援に向けて取り組んでいる。玄関の施錠については、基本的ない方向で実施している。	身体拘束等適正化のための指針を定め、毎月委員会を開催し、課題を検討し、足りないところは研修で深めている。年2回、掃除補助、調理、宿直職員も含め全員研修をおこない、報告書提出を義務付けている。帰りがる利用者には、家事を手伝ってもらったり、話を聞いたり、好きな畑仕事で気分転換を図る等している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の勉強会や職員会議において高齢者虐待についての学びを深めている。研修ではグループワークを通して職員同士で問題や課題の抽出、検討を行うなど現場に即した課題解決に向け取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者で成年後見人制度を活用していることもあり、職員は制度への理解はある。また、様々な制度についてはパンフレットやユニット会議を通して、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書重要事項説明書に基づき説明を行っている。契約時等は一一つ丁寧に説明し不安の解消に努め、納得のいった上で署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時、また、2ヶ月に一度の運営推進会議、利用者アンケート(年1回)、苦情箱等において回収された意見や要望は戦略会議やリーダー会議にて検討され、ユニット会議や職員会議を通して周知している。苦情やアンケート結果については、さらに通信により家族に発信している。	本人からは直接話を聞き、晩酌や化粧等自由に行ってもらっている。年1回家族アンケートを実施している。肯定的な意見が殆どであるが、アンケートから、通信環境の問題でブログを見てもらえない家族が約半数あることも分かり、情報発信の方法について考える機会となった。面会に対する要望があり、現在は1日に2組の15分面会をガラス越しに実施し、リモート面会もおこなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会議等を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。法人本部では職員アンケートを実施している。それらの意見を集約し、運営に反映している。	日頃からリーダーに提案や相談しやすい環境がある。人間関係が良く、働きやすく、利用者のバークューや忘年会の提案も取り入れてもらえたとヒアリングで聞き取った。職員間のもとより、出入りの業者等も当然、人として尊重する様にとという施設長のポリシーが浸透している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場に足を運び、日々の職員の勤務状態を知るとともに、ユニット会議への参加、職員からの相談にその都度対応しながら、職員の意見を集約し、働きやすい環境整備に努めている。相談以外にも個別面談とは言えないが、随時声をかけ状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の一覧表を作成し、また職員の研修参加の有無を把握し管理している。施設内研修はまだまだ充実していないが、各委員会での研修やミニ研修会、介護情報などを配布、または回覧し、介護の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は福知山民間社会福祉施設連絡協議会や研修会など他施設との交流を図っている。その様な機会を通して意見交換や情報収集を行いながら、自施設のサービスの質の向上に努めている。今年度はWEB開催が中心であった。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学時や初回面談日(訪問)には、本人とゆっくりと話をしながら、利用者理解を深め、現在の困りごとや不安などを聞き取っている。また、今後の生活についてその都度、利用者の情動に配慮し、敬愛の念を持って対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や初回面談日(訪問)に家族から時間をかけて希望・要望、悩み事を聞き取りながら、施設での今後について展望が持てるように説明し、安心感を持てるように対応することで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーや他事業所と情報交換をしながら、本人と家族等が納得がいくようなサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は調理や洗濯物たたみ、草取りなどの家事や軽作業を自分のできる範囲内で積極的に取り組んでいる。利用者は役割意識を持ち、社会の一員として職員と共に暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防のため面会制限中であり、日頃の様子は手紙や電話でお伝えし、その時々に必要な支援について家族と一緒に考えている。面会希望の方はWEB面会の他、窓越しでの面会を実施し家族の心配ごとを少しでも解消できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため面会制限が続いている。なかなか思う様に面会や外出等が実施できないが、電話やリモート面会を通じて関係性が途切れないようにしている。また、コロナウイルスの状況を鑑みながら外部の人との接触を避けドライブ等の外出を実施した。	制限付きではあるが、面会が可能で、リモート面会や電話の支援もおこなっている。友人の来訪もあった。趣味や、歌、体操、レクリエーション、畑仕事、餅つき、洗濯物干しや洗濯物畳み等自宅からの生活習慣の継続を支援している。法事への参列もあった。担当者が2か月ごとに写真付きの便りを、食事メニュー表を毎月家族に送っている。広報紙きらら通信を発送して近況を報せている。在宅時の様に、移動図書館で本を借りて読書される方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員間で情報を共有し、利用者一人ひとりの特性を理解するとともに、食堂の席順などの工夫や自然と集まり会話ができるような環境作りをしている。利用者同士が仕事や、レクリエーションなどの共同作業を通して関係性の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後であっても、家族からの電話での問い合わせや相談があった場合は対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談や入居時等、利用者との会話や関わりの中から、意向や思いを聴きとると共に、利用者の身体状況や今の様子から推察されるニーズを明確にし、本人や家族の意向に沿えるよう努めている。	センター方式のアセスメントシートの一部と事業所所定のアセスメントシートを併用し、丁寧に本人や家族の思いを汲み取っている。新しい発見や変化があれば赤字で追記をして、前回との違いを明らかにしている。ソフトクリームが食べたいと言われた方には、通院帰りに店に寄り、畑仕事の好きな方、料理の好きな方等、個々の特技や希望を介護計画に取り入れて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談、面会時や、サービス担当者会議、利用者や家族、前任のケアマネジャー等から情報収集を行うことで利用者像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録(パソコン)、ケース用紙にて毎日のモニタリング 食事摂取量 排泄表等に記載している。それらを、職員間で情報共有することで、利用者の現状を把握し、小さな変化も見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にてカンファレンスを行い、ケアプランにつなげている。また、情報収集用のシート(必要と思われる支援内容)にてユニット職員全員、特養の看護師からも意見をもらい、介護計画書に反映させている。状況に応じ理学療法士や管理栄養士にも相談し、意見をもらっている。	主治医からは在宅療養生活のポイントを書面でもらっている。「ケアプラン更新に必要と思われる支援内容」の用紙に複数の職員が記載し、同じ用紙に家族のコメントと同意をもらった上で介護計画を作成している。安定されていれば、計画期間は1年に設定し、2か月ごとに丁寧にモニタリングをしている。1年以内でも変化や認定期間満了があれば、随時計画を更新している。	介護職のみならず、主治医や必要時に協力してくれる併設事業所の看護師や理学療法士、通院時の家族支援等も介護計画に取り入れると、利用者を支える連携体制の全体像が実感出来るのではないだろうか？また、計画書2票で、認定期間を上回る長期目標の期間設定をされているケースがありますが、期間内に収められるのが妥当と思われます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録(パソコン) やケース用紙に毎日記入し、職員間で共有している。ケース用紙にはケアプラン(支援の方針)やケアの実施のチェック、レクの内容や様子を記入し、情報共有や評価に繋げている。また、利用者の支援の変更事項等は連絡ノートに記載し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日や行事等には、季節の物や利用者の食べたい物の希望を聞き提供している。また、コロナウイルス感染状況を考慮しながら、工夫を凝らし個々のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が活用できるよう、様々な情報は収集しているが、コロナ禍の中、地域の公民館の行事ごとや地元のイベントへの参加はできていない。地域情報を施設内の掲示板に掲載している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を基本継続し、受診は家族の同行、またはかかりつけ医が往診している。往診時には職員が同席している。家族対応で病院受診の際には家族へ近況をお伝え、必要に応じ、現在の状況や医師に伝えたい事柄を書いた用紙を家族に渡している。また、家族のみの病院対応も多く、必要に応じかかりつけ医と直接相談している。	かかりつけ医の訪問診療や協力医療機関と連携し、情報共有をしている。家族が遠方で受診同行が困難な場合や、骨折等で車椅子対応の車両が必要な場合には、職員が状況に応じた支援をしている。発熱や骨折等、判断に困る事態が起きた時には、管理者や併設の地域密着型特別養護老人ホームの看護師の指示や協力を得ている。必要時には歯科往診も依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時または、必要に応じ、特養の看護師へ相談し、対応してもらっている。看護師は日々のケース記録や週1回の来訪にて利用者の状況把握に努めている。看護職と介護職は互いの気づきなど意見を交換を行ったり、看護師からアドバイスをもらっている。また、内服薬の管理をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供を行い、入院中は家族や地域連携室とまめに連絡を取り、状況の把握や情報共有に努めている。また、退院時には家族の意向の確認や風花の受け入れ体制等を含め相談を行い、早期に退院できるよう努めている。退院時カンファレンスの参加、地域連携室と連絡を取り合い情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りに関する指針や終末期の対応についてなど、書類と共に説明し家族から意見や意向を聞き取っている。また、同意書等ももらっている。	重度化した場合の対応にかかる指針や、看取り介護に関する指針はあるが、従来は重度化すると入院をされたり、特別養護老人ホームに移行されることが多かった。現在までに看取りは1件で、加算体制はとれていなかった。徐々に看取り研修や体制整備をしていく方向である。コロナ禍でも、看取り期には、家族に面会やゲストルームの使用してもらった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全衛生委員会の研修や救急救命講習会の参加を通して、実践的な対応ができるようにしている。また、ユニット会議においても急変時の対応について話し合ったりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を年に1回ずつ実施している。併設の特養との協力体制の元、災害時の避難についての協力体制は築けている。ただし、自治会等との連携・協同については今後の課題である。	福知山北分署と相談しながら、併設事業所と合同で昼夜想定消防訓練を年2回実施している。利用者は談話コーナーに避難している。消防署から水消火器3本を借りて扱い方を学び、訓練の後は意見や講評をまとめ、報告書を回覧している。併設事業所の看護師から救急救命講習を受けている。地滑り地域であり、併設事業所3階への避難訓練をしている。コロナ禍で地域との連携はできていないが、運営推進会議には報告している。福祉避難所として水やアルファ化米、粥、カップラーメン、カセットコンロ等を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内での身体拘束や高齢者虐待等の勉強会の中で学びを深め、発生事例等を通して随時検討を行っている。また、職員同士がその都度注意し合える関係作りにも努めている。	キャリアアップ研修、「福祉サービスの基本理論と倫理」の中で尊厳や接遇について学び、研修後はテスト形式や報告書の提出により研鑽している。トイレへの誘導はほかの用事のように自然な感じでおこない、入浴中には扉に暖簾をかけ、職員は別の通路から支援に入り、他者の目に触れないようにしている。利用者への対応で気になることがあった場合は、連絡ノートに記載して周知し、さらにリーダーが当該職員に声をかけて振り返り、気づきを促している。	

京都府 グループホーム風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から、利用者の要望を聴き取り、言葉がけの中でも利用者が日々の生活において自己決定してもらえるよう努めている。利用者同士で意見のぶつかり合いはあるが、それも社会生活の一部として捉え、職員は必要以上の介入をせず見守りを行っている。時には、月1～2回の訪問販売時には、自身で好きな物を選んでいただけるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、消灯の時間は大まかには決まってはいるが、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、職員の都合を押し付けないような支援を心掛けている。また、病院受診等の外出時には、希望があればお店に寄り食べたい物を買ったり、召し上がったりにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1～2回、ヘアサロンの訪問がある。利用希望の有無の確認や利用の際には、利用者一人一人にお好みのヘアスタイルなど確認をしている。利用者は毛染やカットの時間を楽しんでいる。また、職員は毎朝整容(洗面、髪の毛を梳かす、化粧水等を塗る)や自分の着たい服を選んでもらえるよう支援している。入浴時には、自身の好みのシャンプーを使用されている方や毎日化粧をされたり、職員と一緒にマネキュアを塗るなどおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせた食材の「皮むき」や「カット」をしてもらうなど、やりがいや楽しみを持って参加できるよう支援している。また、食事の箸の準備や片付け、食器洗いなども積極的に協力してくれている。	献立は利用者と相談して、インターネットで食材を購入している。畑の収穫物や近所からいただく旬の野菜も食卓に上っている。米は地元農家から購入している。利用者は「何か手伝おうか～」と積極的である。皮むき等の下ごしらえ、盛り付けやテーブル拭き、箸並べ、食器洗い等で本人の持てる力を発揮してもらっている。食事は職員の手作りで、夕食は週3日、調理員が作っている。誕生日には焼肉やハンバーグ、にぎり寿司、ちらし寿司等の希望を実現している。暮れの杣つき餅、恵方巻、流しそうめん、鍋料理等も喜ばれている。おやつにはおはぎや、どらやき、自前の石焼き芋等を作り、楽しんでいる。花見の季節には、敷地内の広場で花見弁当を広げている。年2回の事業所内カフェでは、自分でメニューを選び、本格的な喫茶店の雰囲気を楽しんでいる。	



京都府 グループホーム風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定の実施。また食事量を記録し、各個人の残食も観察し必要な方については、代替え食品を提供する等の個々に応じた提供に努めている。水分量については、記録してはいないが、どのくらい飲まれているかを日々職員間で伝達し、脱水にならないように必要な方にはイオン水の提供をしている。また、ユニット会議には特養の管理栄養士も参加し、食事等についての意見をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯の洗浄などの声かけを行い、また支援が必要な利用者には付き添い、口腔内の清潔が保てるよう努めている。また、義歯は週2回洗浄剤を使用し、清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じたパッド選びと、排尿・排便間隔の把握に努め、個々に応じた声かけやトイレへお誘いするなど、トイレでの排泄を実施している。	利用者が尿意や便意を感じ、トイレで排泄をすることの継続支援をしている。布パンツの方は6名いるが、中には、不安感を除くためにパットを併用している方もいる。圧迫骨折の方は、負荷軽減のため、夜間のみポータブルトイレを使用されている。入院先からリハビリパンツで入所された方は、生活支援の中で布パンツに変更できた。また、入所前は家で失禁があり、リハビリパンツを使用されていたが、入所後の支援により、布パンツとパットで過ごせるようになった方がおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を観察し、必要な方には看護師と相談し服薬調整を行っている。また、水分摂取量にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本週2回を目安とし、朝の9時～夕方17時までの間に入ってもらっている。できる限り、利用者の入浴希望の時間帯等に沿えるように努めている。また、週3回の入浴も行っている。	1人ひとりの希望を聞き、個別に入浴をしている。基本は週2回であるが、週3回に決めている方があり、希望に沿っている。好みのシャンプーやボディソープが使われる方もいる。湯温の希望にも対応している。職員と若い頃の話等をして、ゆっくりと入浴されている。近所の方や職員から頂いた柚子を湯に浮かべる事もある。湯上りには全員保湿剤を塗布し、入浴しない日も保湿剤は日に2回使用している。必要な方には、入浴日以外に足浴をおこなっている。	

京都府 グループホーム風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ねの消灯時間は決まっているが、基本的に利用者の個々の思い思いの時間を過ごしている。また、居室内にて快適に過ごせるよう、職員が訪室し利用者の希望を聞き、窓を開けたり、エアコンで室温調整等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報書を管理し、変更等があった場合、記録に残し職員と看護師で情報を共有し利用者の様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の関わりの中から、利用者の楽しみや得意なことを聞いたり、利用者の持っている能力の把握に努めている。そして、得意な事や好きな事に取り組めるよう環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日夕刊を特養の玄関まで取りに行く、施設の敷地内であるが散歩を楽しまれたりしている。また、可能な範囲内で、ドライブや墓参りなどの外出の支援を行っている。	小学校跡地に建つ事業所の敷地は広く、居ながらにして桜や紅葉を楽しめる。気候の良い時は、敷地内の散歩や畑で農作業をしている。もと農家の方は非常に上手に鋤等を使われる。ポストに新聞を取りに行くのを日課にされている方もいる。コロナ禍により、以前のように外出はしていないが、施設長がショートステイの送迎や用事で出かける時に一人ずつ車に乗せ、気分転換を図っている。少人数で近くの駅までテーブルや椅子、花見団子を持って出かけ、人気のない場所で車を降りてゆっくり花見をすることもあった。法事に出かけた方もいる。病院受診は通常家族とであるが、事情で職員や施設長が通院支援をする場合には、帰りに本人の好きなアイスクリームを買う等している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を個別に所持されている方はおられない。しかし、利用者が希望されれば所持も可能である。また、お金の自己管理の難しい利用者については施設側で管理し、買い物時に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯を持参している利用者もいる。自由に電話や手紙が書けるような環境作りに努めている。コロナウイルス感染予防のため面会制限中であるが、定期でリモート面会をされている利用者や窓越しで電話を通し会話される利用者もおられる。		

京都府 グループホーム風花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、清潔感が保てるよう、整理整頓に努め、季節の野花を飾る他、季節に応じた作品作りを行っている。その他にも会話を通して季節感を感じてもらっている。そして、職員や利用者同士の会話を楽しめる和やかな雰囲気作りに努めている。	木をふんだんに使った事業所内は、廊下も広く、間取りも全体にゆったりとしている。リビングからは台所がよく見え、利用者が作業に参加しやすい造りになっている。3台のテーブルで、利用者は食事やレクリエーションを楽しみ、新聞を読んだり、テレビを見たり、おしゃべりをしたりして過ごされている。隣の畳の部屋にはソファやテレビ、本棚があり、移動図書館で借りたいろいろな本が並んでいる。また、利用者と職員合作の季節の作品や習字、利用者の書かれた額入りの絵等が、調和を保ちながら、リビングや廊下にかかっている。地域の情報コーナーを作り、話題作りをしている。散歩で摘んだ花や、職員が持ってきた花が玄関やリビングに飾られている。また、廊下の突き当りの談話コーナーにはソファが置かれ、大きな窓越しに外の景色が楽しめる憩いの場所となっている。整理整頓や保清に力を入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかに過ごしていただけるよう、一人ひとりを観察し、利用者の意見も考慮しながら隣同士で会話が弾むような席順を考え決めている。また、居室で絵を描かれたり、談話室での読書や利用者同士での会話を楽しんでもらえるよう、個々の時間作りと居場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家で使っておられた馴染みの物を持参してもらい、利用者と家族と一緒に考え配置している。また、家族との写真や誕生日会の時にお渡しする職員からの手作り色紙を飾り、居室が殺風景にならない様に本人の希望を聞きながら居心地の良い空間となるよう努めている。	居室の入り口の小さな棚には、飾り物やハンドクリームを置くなどして、各自自由に使っている。ドアは木製の引き戸で、板間の続きに畳の間があり、窓からは四季の風景が眺められる。板間には車椅子が入る高さの洗面台があり、化粧品や洗面用具が置かれている。ベッド、カーテン、空調機、クローゼットが備え付けられ、炬燵、椅子、テレビなどを家から持ち込まれている。家族の写真や経本、念珠、色紙、本等も置かれている。絵を描く事の好きな方は部屋に道具を広げ、ジグソーパズルの好きな方は出来上がった作品を壁に飾って楽しまれている。利用者とともに掃除やシーツ交換をおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札を掲げ、トイレ戸には「トイレ」トイレ内の電気スイッチには「電気」と分かるように紙を貼っている。また、夜間には足元灯を点灯するようにして、安全に移動できるように配慮している。		